業界の悲願実現へまい進

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会
青年部部長　塚島　英太氏

愛する宿泊観光産業に携わるすべての皆様に、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、全旅連青年部の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昨年の我が国の旅行需要は、訪日外国人旅行者の増加を背景に力強い回復を遂げました。一方で燃料費・食材費の高騰、インバウンド需要の大都市圏への偏在、国際情勢の不安定化など、宿泊観光産業を取り巻く環境は依然として厳しさと不透明さを抱えております。

こうした中、私は「温故創新　観光の中心で咲き誇る礎だれ　Always be yourself」をスローガンに掲げ、全旅連青年部長として再任の一年を務めてまいりました。反省と挑戦を幾度となく重ねる中で、全国の仲間とともに、多くの学びと成長の機会を与えていただいた一年であったと、今、強く感じております。

昨年9月には、大阪・関西万博会場において「宿フェスin Osaka EXPO2025」を開催し、団体や組織の枠を超えオール宿泊観光産業として一丸となり、その魅力と可能性を国内外へ広く発信することができました。本事業は青年部の発信力と実行力、そして宿泊観光産業の底力を示す歴史的意義を有する大きな挑戦であったと受け止めております。

また、全国で開催された都道府県総会には39都道府県にお邪魔し、各地の青年部員・組合員の皆様と直接意見を交わしました。地域ごとに異なる課題や先進的な取り組みを把握し、それらを全体で共有していくことで、課題解決に向けた議論の深化や人材のスキルアップにつながり、ひいては宿泊観光産業全体の地位向上に資するものとなったと確信しております。

全国青年部長と全旅連常務理事を兼務する立場として、青年部と全旅連本体の議論をつなぐ役割も担わせていただきました。心より尊敬し敬愛する、全旅連井上善博会長の力強いリーダーシップのもとで進められている8部会制は、宿泊観光産業の未来を見据えた組織改革であり、業界の構造転換を着実に前へと進める重要な枠組みであると受け止めております。世代を超えた同志がともに活動を展開する中で、業界の諸先輩方からのご指導ご鞭撻、そして若者の挑戦を力強く後押ししてくださる体制に改めて心より感謝申し上げます。

政策面においても、全国旅館政治連盟の集いや旅館ホテル未来研究会、さらには関係各所への陳情活動等を通じ、国会議員の先生方や各省庁との対話を重ねてまいりました。こうした継続的な取り組みの中で、業界の声が着実に届き、それが具体的な形となっていくことで宿泊観光産業に対する大いなる期待と理解、そして信頼が確実に深まっていることを実感しております。観光立国の実現に向け、青年部としても今後とも現場の声を丁寧に届けてまいります。

本年も、日本の宿文化を守り育て、次世代へと確実に継承するとともに、地域の稼ぐ力の磨き直しに取り組み、宿泊観光産業を日本の基幹産業にという業界の悲願実現に向け、全力でまい進してまいります。

結びに、日頃より青年部事業を支えていただいております全国の青年部員の皆様、協定商社の皆様をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げるとともに、皆様のご健勝とご多幸、そして宿泊観光産業のさらなる発展を祈念し、新年のご挨拶といたします。

日刊トラベルニュース
ほぼ毎日記事更新
www.travelnews.co.jp

構造改革を着実に

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会
会長　井上　善博氏

2026年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、訪日外国人旅行者数は過去最高の水準に達し、宿泊観光業界には確かな追い風が吹きました。一方で、科学的根拠のない噂の流布や日中関係の不安定化に加え、燃料費、食材費等の高騰など、事業環境を取り巻く不透明感も依然として残っております。さらに、インバウンド需要の大半が東京、大阪、京都といった大都市圏に集中し、大阪・関西万博も地方周遊の促進には十分に結びつかず、多くの地域ではいまだその恩恵を十分に享受できていないのが現状です。

今こそ我々は、この好機を地域が自らの「稼ぐ力」を取り戻す転換点とするとともに、宿泊観光産業が持続的に収益を生み出せるよう構造改革を着実に進めていかねばなりません。

こうした認識のもと、全旅連では昨年、組織体制を抜本的に見直し、未来を見据えた8つの専門部会を新たに編成いたしました。全国から志と実力を兼ね備えた人材を結集し、業界の課題解決と次なる成長戦略をけん引する体制を整えたところです。現在、各部会では、宿文化の普及啓発・業界の地位向上、外国人労働者の受入拡大等による人手不足対策、DX化の推進、キャンセル料やノーショウ問題への対応、カスタマーハラスメント対策、頻発する自然災害への備えなど、業界が直面する幅広い課題に対し精力的な議論を進めております。本年中には、その成果を一定お示しできるものと考えております。

また、地方創生が国家的な課題となる中、地域経営の必要性が謳われています。私は、宿泊観光事業者こそが地域経営の中心を担うべき存在であると考えております。宿泊観光事業者は、創業以来その地に根を下ろし、「宿は地域のショーケース」と言われるほど地域の食、文化、美意識等を宿に体現してきました。取引先も地域内に広く分布し地域経済を循環させる重要な役割を果たしています。近年多くの宿が地域づくりに主体的に関与し始めており、今後はこうした動きをさらに力強い潮流へと育てていきたいと考えております。

加えて、政・官・民が一丸となり「観光立国・日本」を実現するためには、宿泊観光業界から国会議員を誕生させるとともに、観光庁を「庁」から「省」に発展させることも不可欠です。その機運の醸成にも継続して努めてまいります。また、能登半島地震については、世間の関心が薄れつつありますが、多くの宿泊施設が未だ本格再開に至っておらず、業界全体で支援を続けていかなければなりません。

最後に、日本の宿は単なる「寝る場所」ではなく、その土地の物語を滞在体験として提供する文化を育んできました。我々はその文化を守り、次世代に継承していく責務があります。そのためにも、一つひとつの宿が最高のおもてなしを尽くし、お客様に宿と地域を深く愛していただくことが何より重要です。その先に、宿泊観光産業の明るい未来が必ず開けると信じております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

おつ!!これは使える
大阪案内所要覧
全国の宿泊・食事・観光施設・交通機関の出先機関を収録
旅行業者さくり
近畿7府県の旅行会社全店舗の名簿
好評発売中　㈱トラベルニュース社

人に環境にやさしい宿

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会
シルバースター部会部会長　伊藤　隆司氏

新年あけましておめでとうございます。

全旅連シルバースター部会では、「人に優しい宿」をキーワードに活動を行い、これからの宿泊施設のあり方について議論と実践を重ねてきました。

少子高齢化、旅行スタイルの変化、人手不足、そして環境への配慮等、宿を取り巻く条件は年々厳しさを増していますが、その一方で、社会やお客様が宿に求める価値は、確実に変わってきているのも事実です。

たとえば、バリアフリー対応では、高齢のお客様や障がいのある方だけでなく、小さなお子様連れや妊婦の方、一時的にケガをされた方などにとっても、段差の少なさや分かりやすい動線といった施設内の仕様の情報は「安心して泊まれる理由」になります。特別な対応ではなく、誰にとっても使いやすい宿を目指すことが、結果として選ばれる宿につながっていくと考えています。

また、感染症対策や日々の衛生管理への取り組みも、「安心・安全な宿」を支える基本的な重要要素です。施設内の清掃や衛生管理を丁寧に積み重ねることは、目立たないながらも、お客様の信頼を守る土台になります。衛生水準の向上は一時的な対応ではなく、宿の品質そのものを高める取り組みであり、安心・安全な宿づくりにつながると考えています。

さらに、プラスチック資源循環法への対応をきっかけに、環境に配慮した宿づくりにも取り組みも求められています。使い捨てを減らす工夫や、無理のない省資源化は、コストや手間の問題だけでなく、「この宿の姿勢に共感できるか」というお客様の評価にも直結します。人に優しい宿は、同時に環境にも優しい宿であることが、これからの宿の価値になると感じています。

令和8年は、変化する社会の中で、「この宿で泊まりたい」と選ばれる宿づくりに、皆様とともに取り組んでまいりたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

観光庁長官賞は「龍神温泉郷」

温泉総選挙

一般旅行者の投票で全国の温泉地を評価する「温泉総選挙」の2025年度の最終結果が12月4日に発表された。観光庁長官賞は龍神温泉郷（和歌山県）、総務大臣賞は霧島温泉郷（鹿児島県）、環境大臣賞はいわない温泉（北海道）、地方創生担当大臣賞は榊原温泉（三重県）が受賞した。

温泉総選挙は官民でつくる「旅して日本プロジェクト」の主催で10月に受け付け、5万275人から7万4314票が集まった。特別賞はクールジャパン賞＝大歩危祖谷温泉郷（徳島県）▽おもてなし賞＝岩室温泉（新潟県）▽審査員特別賞＝下田温泉（静岡県）、壱岐湯本温泉（長崎県）、那須温泉郷（栃木県）、指宿砂むし温泉（鹿児島県）、千里浜温泉郷（石川県）